

Vol. 140 日本一の君津を目指しましょう！ — 先ず、1%事業を活用して— (平成20年7月25日)

私がFAX通信『会頭からのメッセージ』を書くのは、経済がグローバル化し、変化が激しくなって、昔からの商売は真面目に一生懸命やれば成り立ったものが、今は全く通用しなくなりました。

如何に時代の変化…消費者のニーズにすばやく対応できるかが勝者と敗者を分ける要因となっております。

私は会頭の役目として、情報、噂を聞くとすばやく足を運び、自分の目を見て、更にデータ、情報紙、専門誌をよく読み、よく確かめて会員の皆様に伝えることを役目として書いて参りました。

会員の皆さんが読んで下さり、判断や決心をされるお役に立つ資料として頂ければ…と願っているからであります。郷土愛の人一倍強い現市長さんが、街づくりは大変な熱意をもって、物心両面の支援をして下さっています。

そこで提案ですが、先ず1%支援事業をもっと活用して下さい。

本年度は43事業、およそ3千20万円採択し現在進行中です。

その結果が楽しみであります。何よりの効果は多くの市民がやる気を起こしてくれたことでもあります。

是非次年度は現在の3倍、120団体、6千万円以上の事業申し込みを期待したいものです。総枠は税収の1%、今期はおよそ1億8千万円、このくらいのご参加を頂ければ支援事業で先ず日本一となります。余り難しくない可能性です。

文化と誇りのあるまち支援事業…

『君津市民歌』で歌われているような伝統、歴史、景観、産業風土を自分たちでもっとすばらしいものに磨き育てることであります。

君津が日本一になれるもの…

①カラーの花200万本は日本一であります。

②小糸大豆(小糸在来)、間違えなく日本一うまいと言われる大豆に負けない

うまさと評価されております。丹後の黒豆は、街道で百店余りの1坪テナントが並び、葉枝付き5~6本束が400円で飛ぶように売られています。

小糸大豆で「ずんだ餅」を作ったらこれも日本一となりそうです。

是非もう一手を加えて付加価値を付けられたなら…

③小糸にはミニヘリコプター世界選手権優勝者の泉水さんがおられます。あの広大な砂漠化しようとしている砂取後地を活用して、日本選手権大会をと提案したら「可能だ」と答えてくれました。

地元の方達にぜひ考えてもらいたいものです。

④君津には「湧水」が多い。しかし、千葉県にはミネラルウォーターの生産が全く「ゼロ」であります。ミネラルウォーターの国内生産は180万kl。更に55万klも輸入で賄っています。

水資源は貴重な産業であります。

⑤君津には世界一の製鉄所があります。世界中から日本の製鉄技術の見学研修が関西方面に多くなっています。

これからは『産業観光資源』として先見性を持って、地元君津が活用できるよう急いでください。

私の推測では7万人以上越えると思っています。

⑥三舟山、鹿野山も今までの発想技法を全く変えてクリスマスツリーで(大晦日にタイマツや大ローソク)全山を飾るとか、夏は市内電灯を消して「手作り提灯」「灯籠のホタル狩り」など…

⑦難しいけれど、「君津音頭日本一大会」とか…この大会を通して、新日鐵君津製鐵所に働く人々と、故郷の人達を君津へご招待したいものです。

⑧太巻き寿司や漁師たちが愛した「鉄砲巻き」春の豊作を祈った「やんごめ(焼き御飯)」今でも時々ごちそうになることがあります。

ブランドとは、意外に身近にあって根付いていても、忙しさの中でふと忘れていたものであります。仙台秋保温泉の田舎スーパーで毎日「お萩」が5千個も売れていると聞くにつけても、まだチャンスはあります。そして1%支援事業が皆さんを応援します。是非会議所へのご相談ください。

